

株主メモ

事業年度	毎年4月1日から翌年3月31日まで
定時株主総会	毎年6月開催
基準日	定時株主総会の議決権 3月31日 剰余金の配当 9月30日・3月31日
株主名簿管理人および 特別口座の口座管理機関	三井住友信託銀行株式会社 東京都千代田区丸の内一丁目4番1号
株主名簿管理人事務取扱場所	三井住友信託銀行株式会社 証券代行部 東京都千代田区丸の内一丁目4番1号
公告の方法	下記ホームページに掲載する。 http://www.nsg.co.jp/
会計監査人	新日本有限責任監査法人

ご住所変更などのお届出およびご照会は、株主様の口座のある証券会社宛にお願いいたします。
証券会社の口座に当社の株式を預けられていない株主様の株式につきましては、下記の電話ご照会先までお問い合わせください。

単元未満株式をご所有の株主様へ

単元未満株式(最低取引単位に満たない1~999株の株式)をご所有の場合、当社に対して、

- (1) 買取請求または
- (2) 買増請求(ご所有の単元未満株式と併せて1単元(1,000株)に達するまでの株式を買い増すこと)をすることができます。

お手続きの詳細につきましては、一般口座ご利用の株主様は、お取引口座のある証券会社までお問い合わせください。特別口座の株主様(証券会社の口座に当社の株式を預けられていない株主様)につきましては、下記の電話ご照会先までお問い合わせください。

郵便物ご送付先	〒168-0063 東京都杉並区和泉二丁目8番4号 三井住友信託銀行株式会社 証券代行部
電話ご照会先	0120-782-031 (フリーダイヤル)

会社概要 (2014年3月31日現在)

商号	日本板硝子株式会社
本店	〒108-6321 東京都港区三田三丁目5番27号 (住友不動産三田ツインビル西館) TEL: 03-5443-9500
設立	1918年11月22日
従業員数(連結)	27,079人
資本金	116,449 百万円
上場証券取引所	東京(証券コード: 5202)
お問い合わせ	http://www.nsg.co.jp/ja-jp/contact-us

お知らせ

第148期定時株主総会の議決権行使結果につきましては、臨時報告書により、インターネット上で、EDINET(<http://disclosure.edinet-fsa.go.jp/>)に掲載されるとともに、当社ホームページにおいても開示されます。これらをもって決議ご通知に代えさせていただきますので、ご了承ください。

ホームページのご案内

当社グループのホームページでは、決算情報や最新プレスリリースなど、さまざまな情報を掲載しております。どうぞご活用ください。

<http://www.nsg.co.jp/>



株主の皆様へ

日本板硝子株式会社
第148期 報告書
2013年4月1日 ~ 2014年3月31日

「ガラス技術で世界に変革を」

ごあいさつ

平素をご高配を賜り、厚くお礼申し上げます。

当期における、当社の主要な建築用および自動車用ガラス市場の状況は、前期より改善しました。欧州の市場は依然として低位で推移しているものの、当期末が近づくにつれて状況は徐々に復調しました。また、消費税増税を前に需要が好調だった日本市場や、さらなる成長を見せた北米市場は、おおむね改善傾向を示しました。高機能ガラス市場では、好調と低調が混在する状況でした。

当社は、新たに策定した今後4年間の中期経営計画に沿って、収益性の回復をさらに加速させてまいります。



代表執行役社長兼CEO
吉川 恵治

当期における建築用ガラス事業の業績は、主に当社グループがこれまで取り組んでまいりましたリストラクチャリング施策の効果により、前期と比較して大幅に改善しました。売上高は、円安による為替換算の影響により増加しました。

自動車用ガラス事業の売上高は、主として円安による為替換算の影響により、前期より増加しました。市場の状況は、総じて前期より改善しました。

高機能ガラス事業の売上高は、円安効果が数量減少の影響を相殺したため、前期並みとなりました。営業利益は前期よりわずかに減少しましたが、なお高い利益率を維持しています。

これまでのリストラクチャリング施策の効果が、引き続き各事業および地域の収益性の向上に寄与するものと考えております。

当社は、持続可能な事業業績をベースにして、配当の支払いを確保することを利益配分の基本方針としておりますが、当期の期末配当につきましては、まことに遺憾ながら、実施を見送ることとさせていただきます。当社は、配当が株主の皆様にとって重要なものであること

を認識しており、当社グループの業績が十分に改善した段階で配当の実施を再開することを考えております。

当社は、2018年3月期までの期間を対象とする新たな中期経営計画を公表いたしました。この中期経営計画の基礎となるグループの戦略ビジョンは、当社グループが高付加価値ガラス企業「VAガラスカンパニー」に変革することです。当社グループは、中期経営計画に沿って、先進性のある技術を用いた製品を生産するとともに、財務業績を改善することで、株主価値を創造することができると考えております。

株主の皆様には、引き続き当社グループへのご理解とご支援をお願い申し上げます。

2014年6月5日

日本板硝子株式会社
代表執行役社長兼CEO

吉川 恵治

連結業績ハイライト

連結損益計算書(要旨)

	第148期 (2014年3月期) (2013年4月1日～ 2014年3月31日)	第147期 (2013年3月期) (2012年4月1日～ 2013年3月31日)
売上高(百万円)	606,095	521,346
個別開示項目前営業利益(百万円)	14,567	1,946
税引前損失(百万円)	△16,401	△31,096
当期損失(百万円)	△16,485	△33,455
親会社の所有者に帰属する当期損失(百万円)	△17,630	△34,324
基本的1株当たり当期損失(円)	△19.53	△38.04

連結キャッシュ・フロー計算書(要旨)

	第148期 (2014年3月期) (2013年4月1日～ 2014年3月31日)	第147期 (2013年3月期) (2012年4月1日～ 2013年3月31日)
営業活動によるキャッシュ・フロー	17,880	14,213
投資活動によるキャッシュ・フロー	△17,106	△7,041
(フリー・キャッシュ・フロー)	774	7,172
財務活動によるキャッシュ・フロー	△20,744	27,945
現金および現金同等物の期末残高	52,293	65,173

売上高 (単位:百万円)



個別開示項目前 営業利益 (単位:百万円)



当期損失 (単位:百万円)

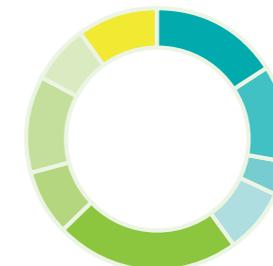


注: 第147期(2013年3月期)および第148期(2014年3月期)の連結業績は、国際会計基準(IFRS)に基づいて作成されています。第147期(2013年3月期)については、従業員給付に関するIFRS(IAS第19号)の改訂の適用に伴い、当該改訂の適用を反映した遡及修正後の数値を記載しています。

連結貸借対照表(要旨)

	第148期 (2014年3月期) (2014年3月31日)	第147期 (2013年3月期) (2013年3月31日)
非流動資産	643,369	591,360
流動資産	281,806	294,076
資産合計	925,175	885,436
負債合計	750,677	729,983
資本合計	174,498	155,453
負債および資本合計	925,175	885,436

事業別連結売上高構成比



● 建築用ガラス 欧州	16%
● 建築用ガラス 日本	12%
● 建築用ガラス 北米	4%
● 建築用ガラス その他地域	8%
● 自動車用ガラス 欧州	23%
● 自動車用ガラス 日本	8%
● 自動車用ガラス 北米	12%
● 自動車用ガラス その他地域	7%
● 高機能ガラス	10%

トピックス

ベトナムに超薄板ガラス(UFF®)用フロートラインを新設

当社グループは、ベトナムにおいて超薄板ガラス(UFF®)用フロートラインを新設しました。本フロートラインは、本年6月から生産が立ち上がり、本年度下期より本格生産をスタートいたします。今回の新設により、当社グループのUFF®用フロートラインは日本(舞鶴)1基、ベトナム1基の2窯体制となります。

当社のUFF®は、中小型液晶用基板として広く使用され、パソコンやモバイル端末向けのタッチパネル用基板ガラスおよびカバーガラスとしての使用が急速に拡大しています。

当社グループは、長年にわたる当社のUFF®における技術・開発力を発揮し、今後ともグローバルな顧客のニーズに応えてまいります。



新設したUFF®用フロートライン建屋

複層真空ガラス「スペース21®」が平成25年度省エネ大賞を受賞

当社の複層真空ガラス「スペース21®」遮熱クリアタイプが、平成25年度省エネ大賞(製品・ビジネスモデル部門)において、省エネルギーセンター会長賞を受賞しました。

「省エネ大賞」は、優れた省エネ活動事例や技術開発等による先進型省エネ製品等を表彰することで、省エネルギー意識の浸透、省エネルギー製品の普及促進等に寄与することを目的とし、経済産業省の後援を受け、一般財団法人省エネルギーセンターが主催するものです。

複層真空ガラス「スペース21®」遮熱クリアタイプは、2013年11月発売の商品で、従来品と同厚であるにもかかわらず、断熱性能を約10%向上させ、さらに日射遮蔽性能を付加した、国内最高水準の断熱窓ガラスです。わずか18.2ミリの厚さで、50ミリの厚さのガラスウールにも匹敵する高い断熱性に加え、薄型設計を実現する独自の真空ガラス「スペース®」を用いたハイブリッド構造が高く評価され、今回の受賞に至りました。

環境負荷低減につながる省エネや環境保全に対する意識はますます高まっており、当社グループは今後とも省エネルギーに貢献できるさらなる高付加価値製品の開発を図ってまいります。



2014年1月に開催された表彰式の様子



スペース21®構造図

特集 NSGグループ 長期戦略ビジョンおよび中期経営計画について

長期戦略ビジョン

当社は、今後当社グループが進むべき方向として、「VAガラスカンパニー」に変容・変革することを戦略ビジョンとして設定しました。

VAとは、英語のValue-added(付加価値のある)の頭文字に由来しており、VAガラスカンパニーの目指すものとしては、以下のとおりです。

- ガラススペシャリストとして高い信頼を獲得
- 製品とサービスを通じて、世界中の様々なお客様と密接に協働し独自の付加価値を提供
- 事業構造を転換し、伝統的なビジネスモデルから、より高付加価値品(VA製品)に傾注

VAガラスカンパニーに変容した後は、よりスリムな総資産、より景気に左右されにくい構造、そしてなにより収益性の高い企業であることを目指します。

中期経営計画(2015年3月期~2018年3月期)

これからの4年間はVAガラスカンパニーへの変革のための重要なステップであり、これを中期経営計画として位置づけました。この期間の主な目標は、財務サステナビリティを確立し、戦略ビジョンが描くVAガラスカンパニーへの変革を開始することです。そのためのアクションとして、VA製品比率の向上と、既存設備の生産性の極大化を追求します。

高付加価値事業の拡大

建築用ガラス事業	ソーラー用ガラス		高付加価値
	真空ガラス		
	Low-E + ソーラーコントロールコーティング		
	防火ガラス		
自動車用ガラス事業	ソーラーコントロール、UV+IR Cut		高付加価値
	安全、快適性機能統合化		
	複雑形状 補修用ガラス		
高機能ガラス事業	オフィスプリンター向け光学機器		高付加価値
	タイミングベルト向けグラスコード ディスプレイ用ガラス		

高付加価値品(VA製品)へのシフト加速
 <売上高に占めるVA製品の比率>

VA比率
約1/3
(現状:2014年3月期)

VA比率
1/2以上を目指す
(2019年3月期以降)

2018年3月期の姿 目指すターゲット

- ネット借入/EBITDA:3倍
- 売上高営業利益率(ROS):8%

ガラス市場想定

- 先進国:緩やかな回復
- 新興国:適度な成長

	2018年3月期 イメージ	2014年 3月期 (億円)
売上高	6,700億円以上	6,061
営業利益*	600億円	224
EBITDA	1,000億円	544
ネット借入	3,000億円	3,791
ROE	10%以上	—

※個別開示項目およびピルキントン社買収に係る償却費控除前営業利益